

aiameguyuu さんの体験記第6話です。

-----  
最近の毎日の電話といい、母との会話などから私の異変に気付いた両親は、  
祝日の休みに日帰りで突然やってきた。

おいしいパンとお菓子を届けに。

僕の相手もしてもらって久しぶりに明るさが戻る。

晩御飯を母に作ってもらった。しばらくいてくれるらしい。

私は何かおかしくなったのだろうか。

旦那と母が夜話し込んでいた。

母が突然どこか病院に行ってみてくれと言う。

どこか病院って何が悪いの？朝起きれなかったり、死にたいと思ったり、子供が邪魔だと思ったりする。

産後の肥立ちが悪いのかもとりあえず産婦人科に無理やり行かされる。

産婦人科では育児不安でしょうかといわれ、保健婦さんを訪問してくれるように手配してくれた。

それで一応安心して母は帰って行った。

保健婦さんが来られた。今多いのよ。若いお母さんで悩んでいる人。できることをできるだけいい。子供は十分育つから。そう励ましてくれた。でも、できることじゃなくてしなきゃいけないことをきちんとしたい。それができなくてまったくお手上げ状態になる。

精神科の先生の相談も受けてみた。

実家のお母さんとかを頼って息抜きしたらいいですよ。と言われた。医者にかかるほどではないけれど少しおおざっぱにされるといいですよ。と。

でも、私の心はますます窮屈になっていった。

外へ出る気にもならない。離乳食ってこれでいいのかわからない。晩御飯は作れない。

朝は鉛がついたようで起きれない。もう起きる気力すらない。

「実家へしばらくかえったら？」旦那の一言。

うちの家はここなのに、どうして実家へ帰らなくてはならないの？

でも、今は何もできていない。僕の世話にも影響が出てきた。

(続く)